

2017年度 決算説明会資料

2018年2月7日(水)
カゴメ株式会社(2811)
<http://www.kagome.co.jp/company/ir>

本日のご説明内容

I. 2017年度決算内容

- ・売上、各段階利益、2期連続過去最高
- ・健康志向の多様化を先取りした事業活動が奏功
- ・収益構造の改革、働き方の改革成果

II. 長期ビジョンと中期経営計画進捗

- ・中計、2018年度売上2,200→2,150億円
- ・営業利益率6%、ROE8%は達成見込み
- ・次期中計では、成長に軸足

III. 2018年度課題

- ・スムージー更に拡大
- ・生鮮トマト/ベビーリーフ拡大
- ・グローバルフードサービス向けビジネス強化

IV. 2018年度業績予想

- ・配当35円予定

2017年度期 連結業績

連結業績		対前年		対修正予想	対期初予想
売上高	2,142億円	+117億円	+6%	▲30億円	+42億円
営業利益	120億円	+10億円	+9%	▲5億円	+5億円
経常利益	126億円	+13億円	+11%	▲4億円	+7億円
当期純利益※	101億円	+33億円	+49%	+14億円	+17億円

※親会社株主に帰属する当期純利益

※億円未満は四捨五入表示

- ・売上、各段階利益、2期連続過去最高
- ・健康志向の多様化を先取りした事業活動が奏功
- ・収益構造の改革、働き方の改革成果

2017年度 事業別業績

単位:億円

	売上高			
	16年度	17年度	増減額	増減率
国内加工食品事業	1,469	1,576	+ 107	+ 7%
国内農事業	115	114	▲1	▲1%
国際事業	474	488	+ 15	+ 3%
その他/セグメント間取引	▲32	▲37	▲5	-
合計	2,025	2,142	+ 117	+ 6%

単位:億円

	営業利益			
	16年度	17年度	増減額	増減率
国内加工食品事業	81	107	+ 26	+ 31%
国内農事業	9	▲2	▲11	-
国際事業	12	8	▲4	▲33%
その他/セグメント間取引	7	7	▲0	-
合計	109	120	+ 10	+ 9%

※億円未満は四捨五入表示

- ・国内加工食品事業(増収増益):スムージー、機能性表示食品好調
- ・国内農事業(減収減益):生鮮トマト市場価格の下落
- ・国際事業(増収減益):為替影響除き減収、オーストラリア豪雨影響等

2つのスムージーが好調

野菜生活100スムージー



GREENS



カゴメは、スムージー市場のトップブランドに成長

機能性表示食品が好調

機能性表示トマトジュース



トマトの栄養素
リコピンの
機能性

機能性表示野菜ジュース



野菜に含まれる
GABAの
機能性

自然由来成分の機能性表示をした点が、消費者ニーズを捉え売上増

2017年度 国内加工食品事業



ナポリタンスタジアム開催

中食市場拡大

通販商品好調



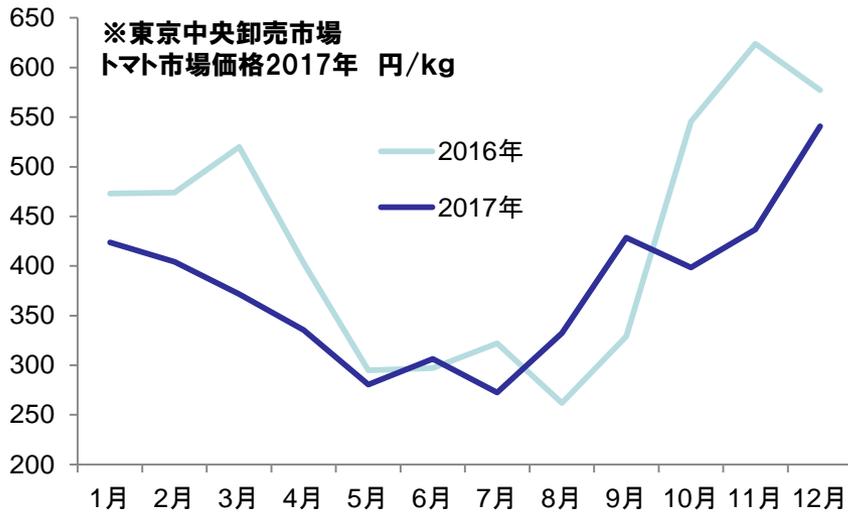
トマトケチャップ需要拡大

コンビニ・スーパー惣菜向け
業務用商品好調

売上100億円突破

生鮮トマトの市場価格下落により減収減益

トマト市場価格推移



12%価格下落(年平均)

洗浄済みベビーリーフ発売



時短・簡便・健康ニーズへ対応

業務用堅調、オーストラリア豪雨影響等により実質減収減益
為替影響額：売上+20億、営業利益+0.4億

米国：カゴメインク社

業務用ビジネス好調。グループ内取引時期変更。
品質トラブルによる一時的な管理費用上昇。



ポルトガル：HIT社

トマトペーストの出荷が堅調に推移。



**豪：
カゴメオーストラリア社**

豪雨による加工用トマト収量減少により、
収益が悪化。



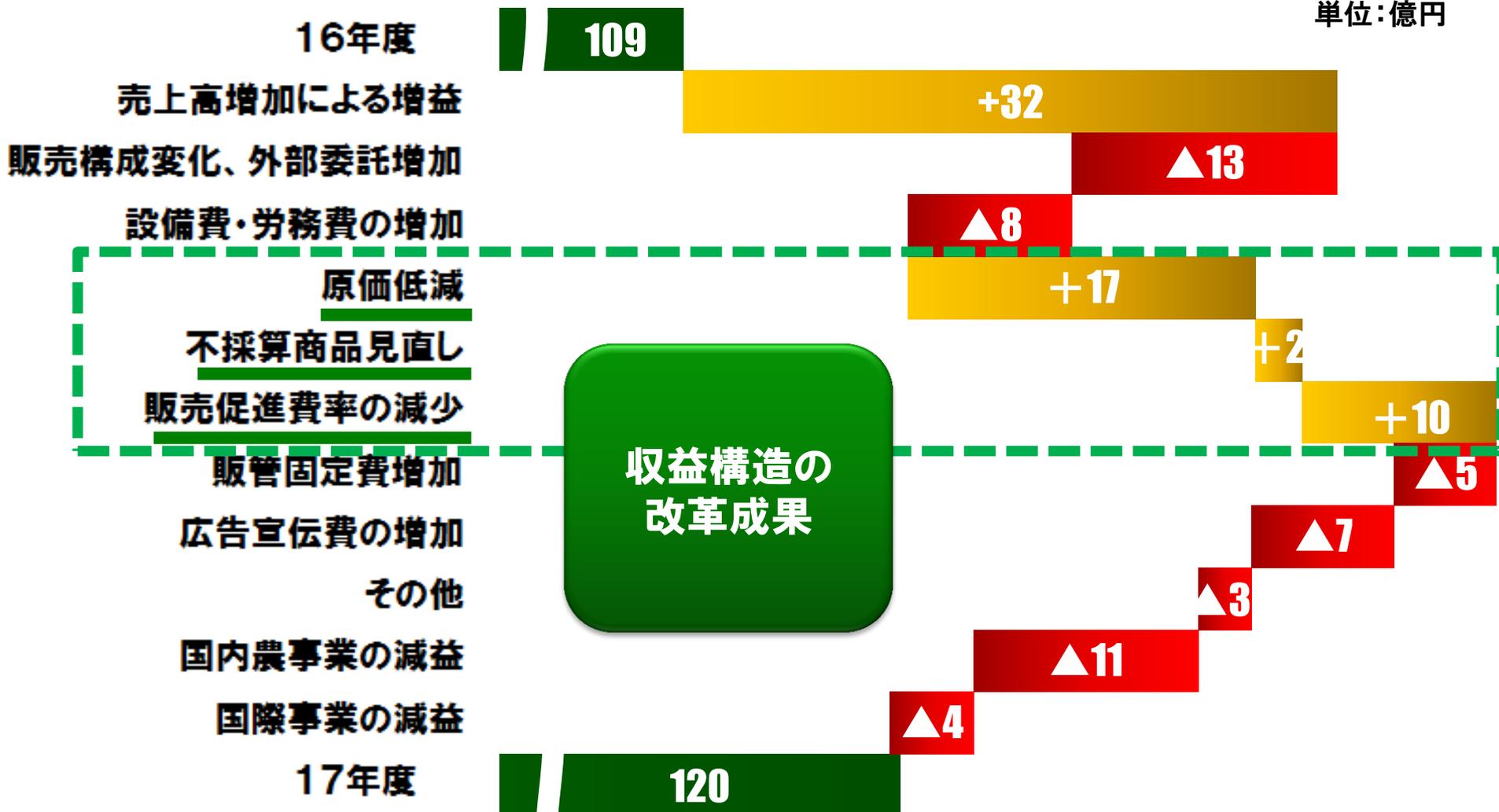
**種子育苗事業
米国：UG社**

欧州、中東、北アフリカなどへ販路拡大。
トルコ子会社の為替影響により減益。



2017年度 営業利益増減要因

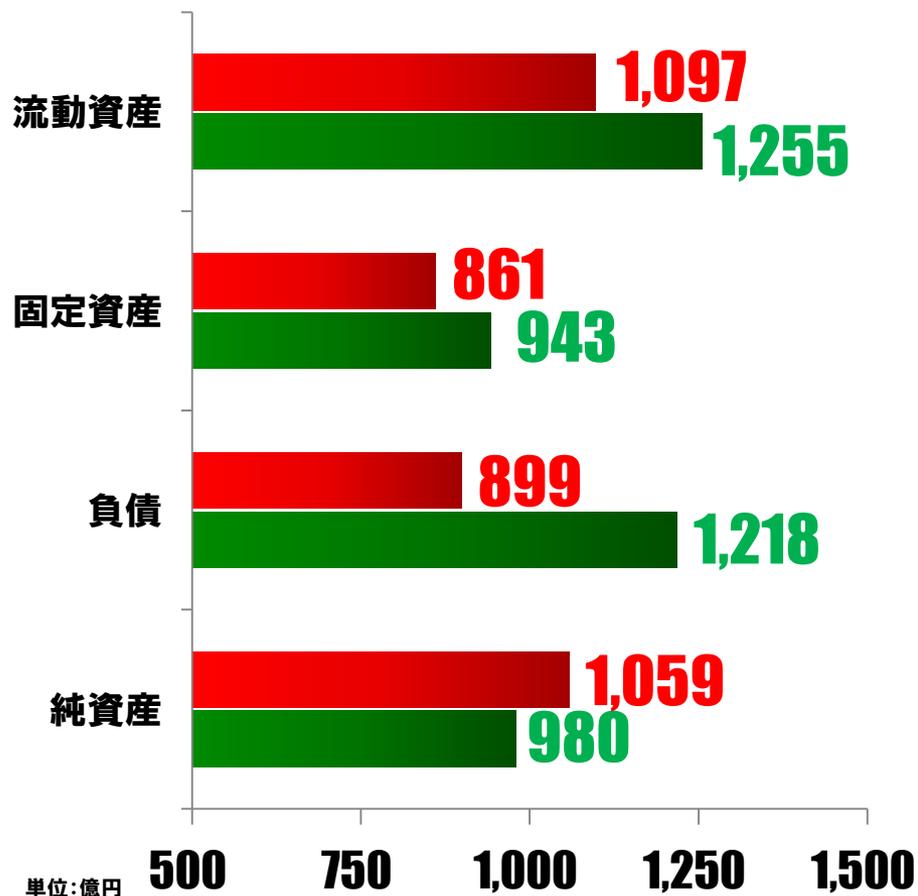
単位：億円



2017年度 連結貸借対照表変動

総資産/負債・純資産
1,957億(前期末比▲240億円)

単位:億円



■:2016年12月末 ■:2017年12月末

流動資産 ▲158

・キャッシュの減少 ▲168

固定資産 ▲82

・PBI社連結離脱による減少 ▲109
 ・固定投資による増加 + 86
 ・償却による減少(のれん含む) ▲65

負債 ▲319

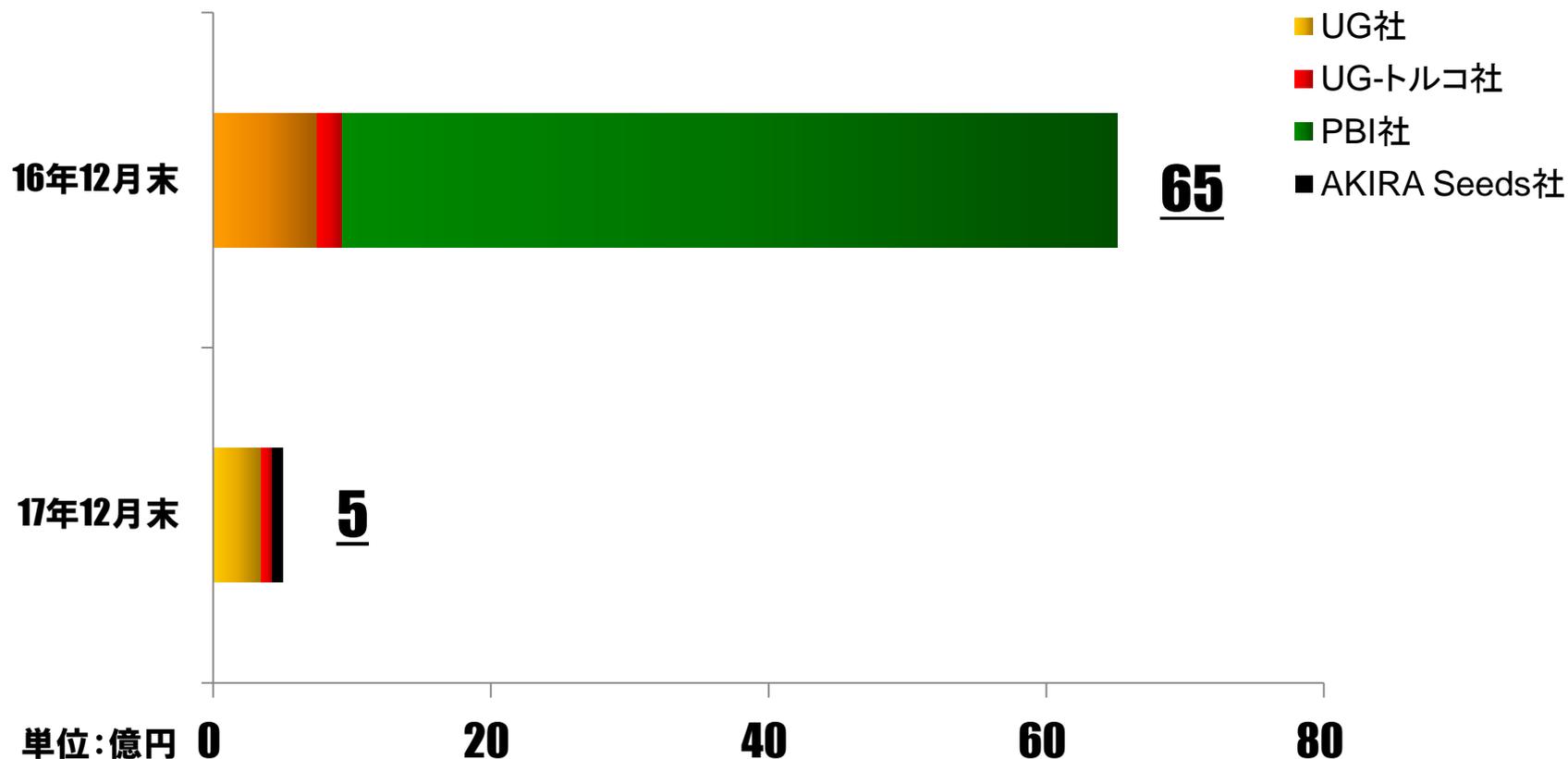
・借入金の返済 ▲374
 (自己株TOB資金・PBI取得資金)

純資産 +79

・純利益による増加 + 101
 ・配当による減少 ▲22

2017年度 のれん変動

のれん 5億(▲60億円)



- PBI社売却により52億円減少
- AKIRA Seeds社株式取得により1億円増加
- のれん償却により7億円減少、円高に伴う為替換算影響により2億円減少

2017年度 キャッシュフロー



単位：億円

	16年度	17年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	+ 188	+ 166	▲ 22
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	▲ 186	+ 173	+ 358
定期預金、有価証券に係る収支(C)	▲ 102	+ 123	+ 225
フリーキャッシュ・フロー(A+B-C)	+ 104	+ 216	+ 111
財務活動によるキャッシュ・フロー	+ 69	▲ 408	▲ 477

- ・フリーキャッシュ・フロー： PBI社売却により112億円増加
- ・財務キャッシュ・フロー： 自己株TOB・PBI取得資金の返済による支出増加▲352億円

本日のご説明内容

I. 2017年度決算内容

II. 長期ビジョンと中期経営計画進捗

III. 2018年度課題

IV. 2018年度業績予想

「食を通じて社会問題の解決に取り組み、
持続的に成長できる強い企業になる」



トマトの会社から、
野菜の会社に。

健康寿命の延伸

日本の野菜不足ゼロを目指す

野菜供給量算出システム稼働



小売業との連携強化

弘前大学との共同研究



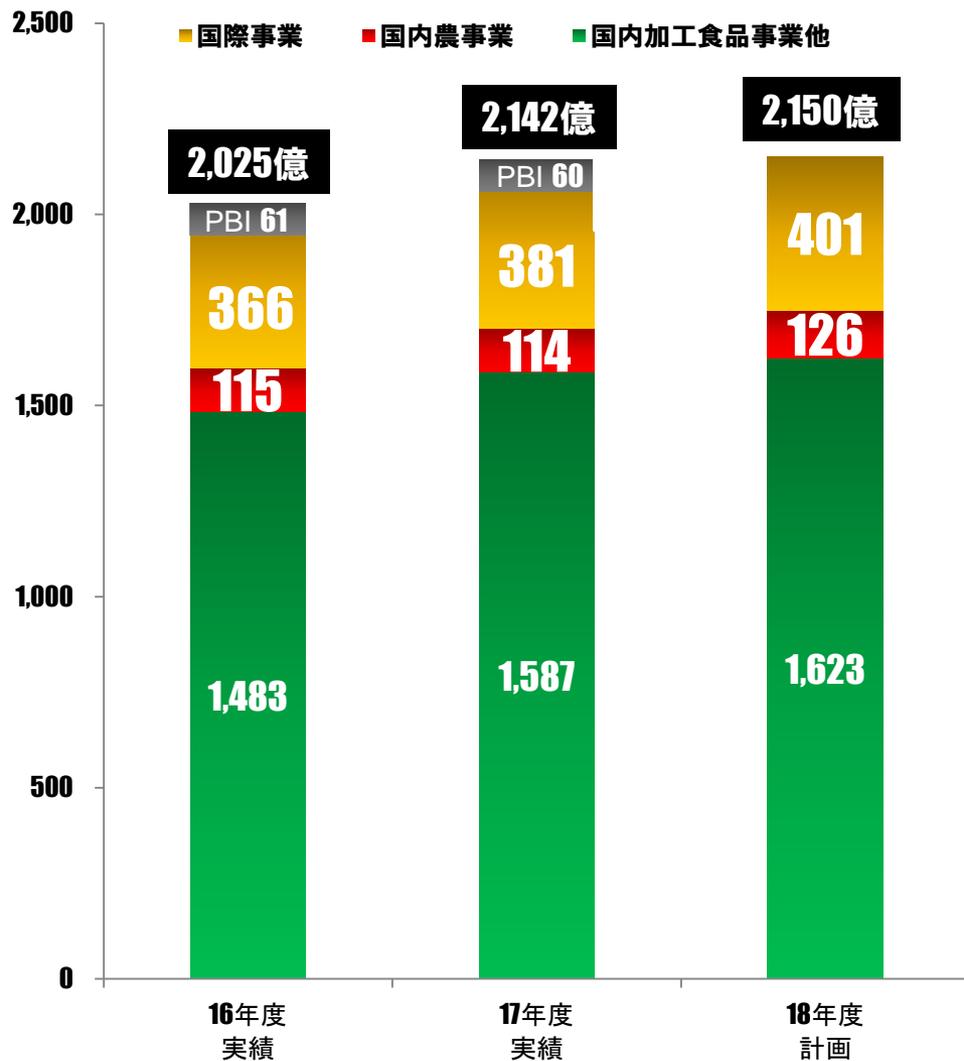
健康診断のビックデータ解析

中期経営計画進捗

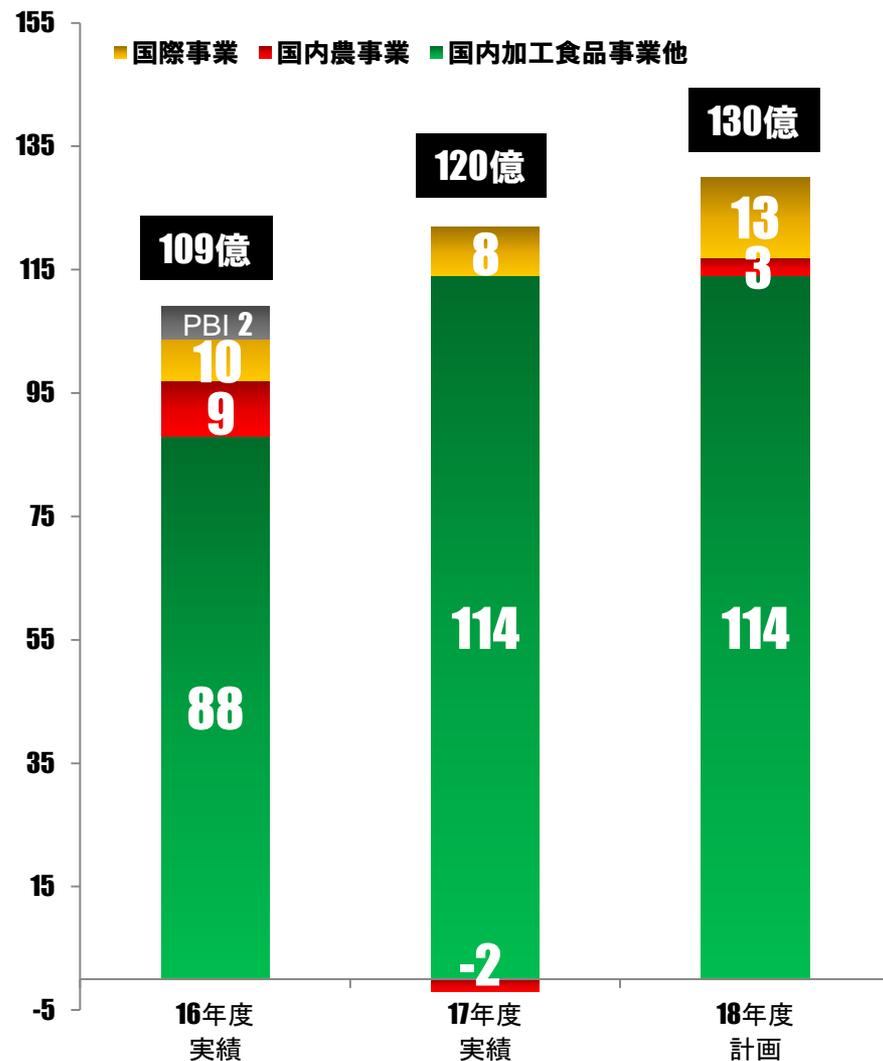
※各事業は「セグメント間の消去・及び調整」後数値



◆売上計画



◆営業利益計画



本日のご説明内容

I. 2017年度決算内容

II. 長期ビジョンと中期経営計画進捗

III. 2018年度課題

IV. 2018年度業績予想

国内加工食品事業

スムージー拡大

- ・野菜生活100Smoothie
- ・GREENS



機能性表示食品拡大

- ・W表示トマトジュース
- ・新商品発売予定



- ・基本のトマトソース拡大
- ・野菜だしスープ商品開発
- ・「野菜のおかず」惣菜



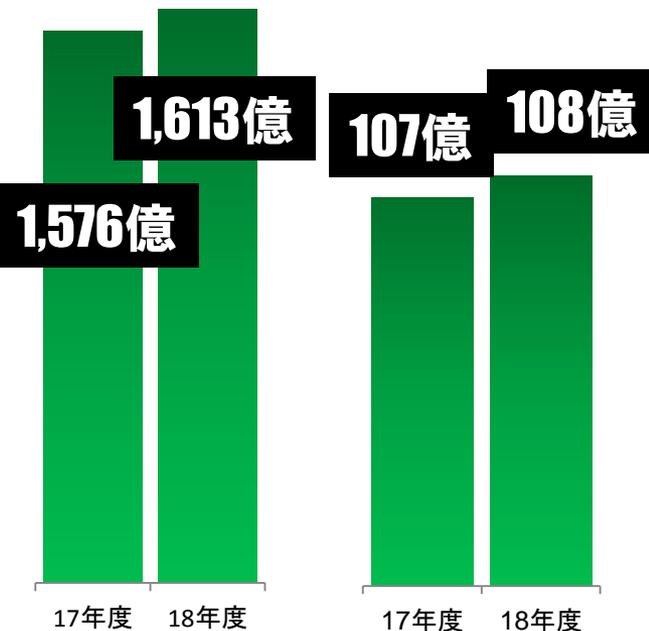
【18年度計画】

売上計画

102%

営業利益計画

101%



国内農事業

市場価格の変動に大きく
左右されない収益構造の構築



トマト栄養素リコピン訴求



・ベビーリーフ拡大
・生産能力3倍に



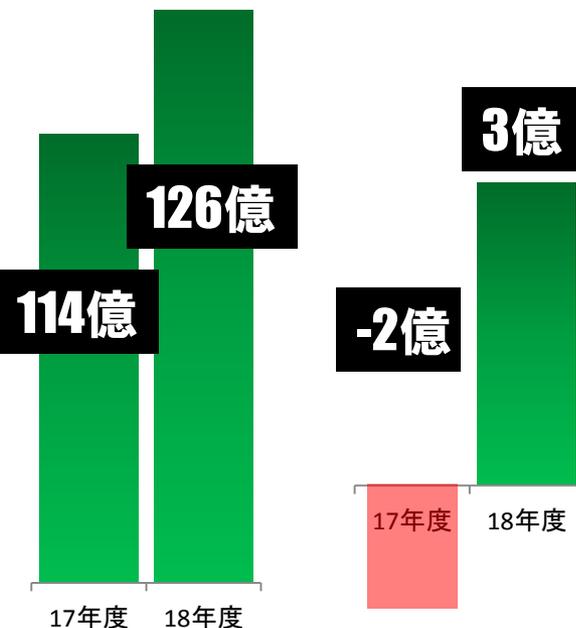
【18年度計画】

売上計画

111%

営業利益計画

+5億



国際事業

グローバルフードサービス向け
ソリューションビジネス強化



トマトペースト
販売エリア拡大



セネガルでの事業開始



【18年度計画】

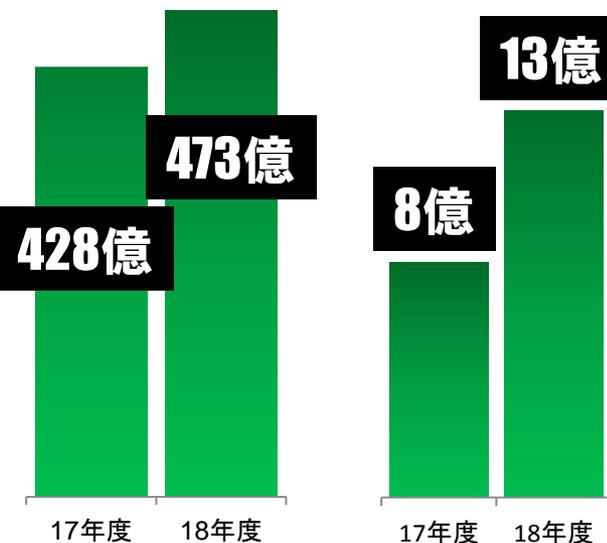
売上計画

営業利益計画

111%

163%

※PBI社売却影響除く



収益構造の改革 / 働き方の改革

収益構造の改革

限界利益
マネジメント



生産効率化



働き方の改革

2020年までに
総労働時間
1,800時間



有休取得率
70→80%



本日のご説明内容

I. 2017年度決算内容

II. 長期ビジョンと中期経営計画進捗

III. 2018年度課題

IV. 2018年度業績予想

2018年度通期業績予想

◆事業別業績予想

単位:億円

	売上高			
	17年度	18年度	増減額	増減率
国内加工食品事業	1,576	1,613	+ 37	+ 2%
国内農事業	114	126	+ 12	+ 11%
国際事業	488	473	▲15	▲3%
PBI社影響額除く	428	473	+ 45	+ 11%
その他/セグメント間取引	▲37	▲62	▲25	-
合計	2,142	2,150	+ 9	+ 0.4%

単位:億円

	営業利益			
	17年度	18年度	増減額	増減率
国内加工食品事業	107	108	+ 1	+ 1%
国内農事業	▲2	3	+ 5	-
国際事業	8	13	+ 5	+ 63%
PBI社影響額除く	8	13	+ 5	63%
その他/セグメント間取引	7	6	▲1	-
合計	120	130	10	+ 9%

※億円未満は四捨五入表示

2018年度 キャッシュフロー



単位：億円

	17年度	18年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	+ 166	+ 140	▲ 26
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	+ 173	▲ 50	▲ 223
設備投資	▲ 92	▲ 130	▲ 38
定期預金、有価証券に係る収支(C)	+ 123	+ 70	▲ 53
フリーキャッシュ・フロー (A+B-C)=D	+ 216	+ 20	▲ 196
PBI社売却収入(E)	+ 112	-	▲ 112
フリーキャッシュ・フロー (PBI社売却収入を除く) D-E	+ 103	+ 20	▲ 83

主要な設備投資予定

スムージー
生産能力増強

投資総額

14億

17年度：8億円
18年度：6億円



野菜飲料ペットライン
生産能力増強

投資総額

48億

18年度：21億円
19年度：27億円



国内農事業
ベビーリーフ菜園、
野菜生活ファーム等

投資総額

14億

18年度：14億円



情報システム
基幹システム刷新

投資総額

17億

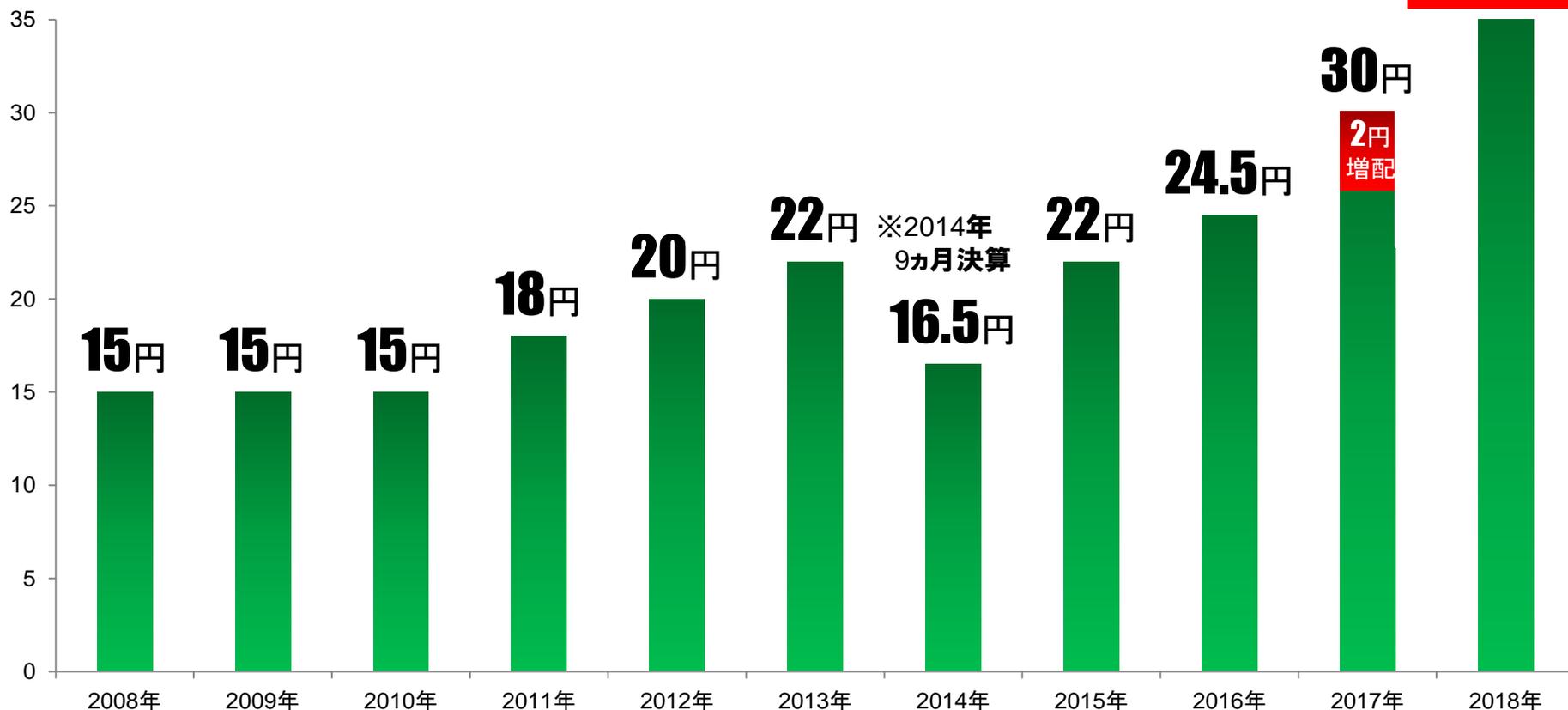
18年度：8億円
19年度：9億円



2018年度配当予想

【1株当たり配当金推移】

単位:円



2018年度配当予想

普通配当30円+記念配当5円=35円

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみにより全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますので注意ください。